

伝え合う力を育てる国語科学習指導の工夫

－話す・聞く活動の学習指導を通して－

浦添市立前田小学校 崎原 律子

【要約】

本研究は、自分の考えを適切に表現するとともに、自分とは違う考えにも共感できる児童の育成をめざし音声言語の帯単元を通して、伝え合う力を育てる学習の展開を試みたものである。多様な学習材を用い、交流の場を設定することで、話すことに抵抗を感じていた児童が、喜んで発表したり、友達の話に興味を持ち、共感しながら聞く姿勢が見られた。

キーワード

伝え合う力 話すこと・聞くこと 帯単元 対話 わたしのたからもの

テーマ設定の理由

人間はこの世に生を受けてから今日まで、言葉によるコミュニケーションの環境の中で生活してきている。言葉により外部から情報を取り込み、伝達し、人との出会いで喜びを感じ、安心感を得たりしながら成長していく。

今、学校教育に求められているのは、子ども達に基礎的・基本的事項を確実に身につけさせ、自ら学び自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよく問題を解決する資質や能力など、いわゆる「生きる力」を育むことであると言われている。

国語科の学習指導要領では、「伝え合う力を高める」「思考力や想像力及び言語感覚を養う」ことを目標に位置づけている。

伝え合う力は一層進展する情報化・国際化社会の中で豊かな人間関係を築いていくという点で欠かせない重要な内容であり、学習の中ではもちろん日常生活において全ての力になると考える。

これからの国際化社会に通用する人間を育成していくためには、まず母国語である日本語で自分の意志を伝達し、表現できる力をつけていかなければならない。

1年生にとって、学校生活や身の回りの様々な事は驚きに満ちており毎日が感動の連続である。

学校生活において発見したことや思い・願いを絵と文で表現し発表を好んで行うが、必ずしも全員が喜んで発表しているとは言えない。発表している児童の中でも恥ずかしがったり、声が小さかったり、内容が単調であったりと、表現力の乏しさを感じる時がある。子ども達は、おしゃべりや私語は良くするが改まった場面や学習場面におい

て自分の考えを持って事柄の順序を考えながら相手によく分かるように説明したり発表したりする能力が身に付いていない。そのために、話す・聞く活動が双方向に行なわれる必要があると考えた。国語の能力は、知識のみで身に付くものではなく、知識が技能として身に付き習熟した時はじめて生活に生きてはたらく力となる。興味・関心を持ち、繰り返し学習する事が必要だと考え国語科の学習はもとより、日常の学習活動で培っていききたい。

そのために表現力を培うための音声言語の帯単元指導を取り入れ継続的・計画的に指導を行なうて行きたい。

そこで、今回は、自分の宝物について紹介する単元において一人一人が自分が感じていることや思いを言葉にして、その大事さが相手に伝わるように表現できるような指導法の研究をしていきたいと考え本テーマを設定した。

目指す児童像

- ・自分の思いや考えを自分の言葉で話したり書いたりする子ども
- ・最後まで集中して聞き、共感したり質問したりする子ども

研究の目標

児童一人一人が自分の思いや願いを自分の言葉で話し、相手の話をしっかり聞く活動が双方向に行うことができる能力を養うための指導法の研究をする。

研究の仮説

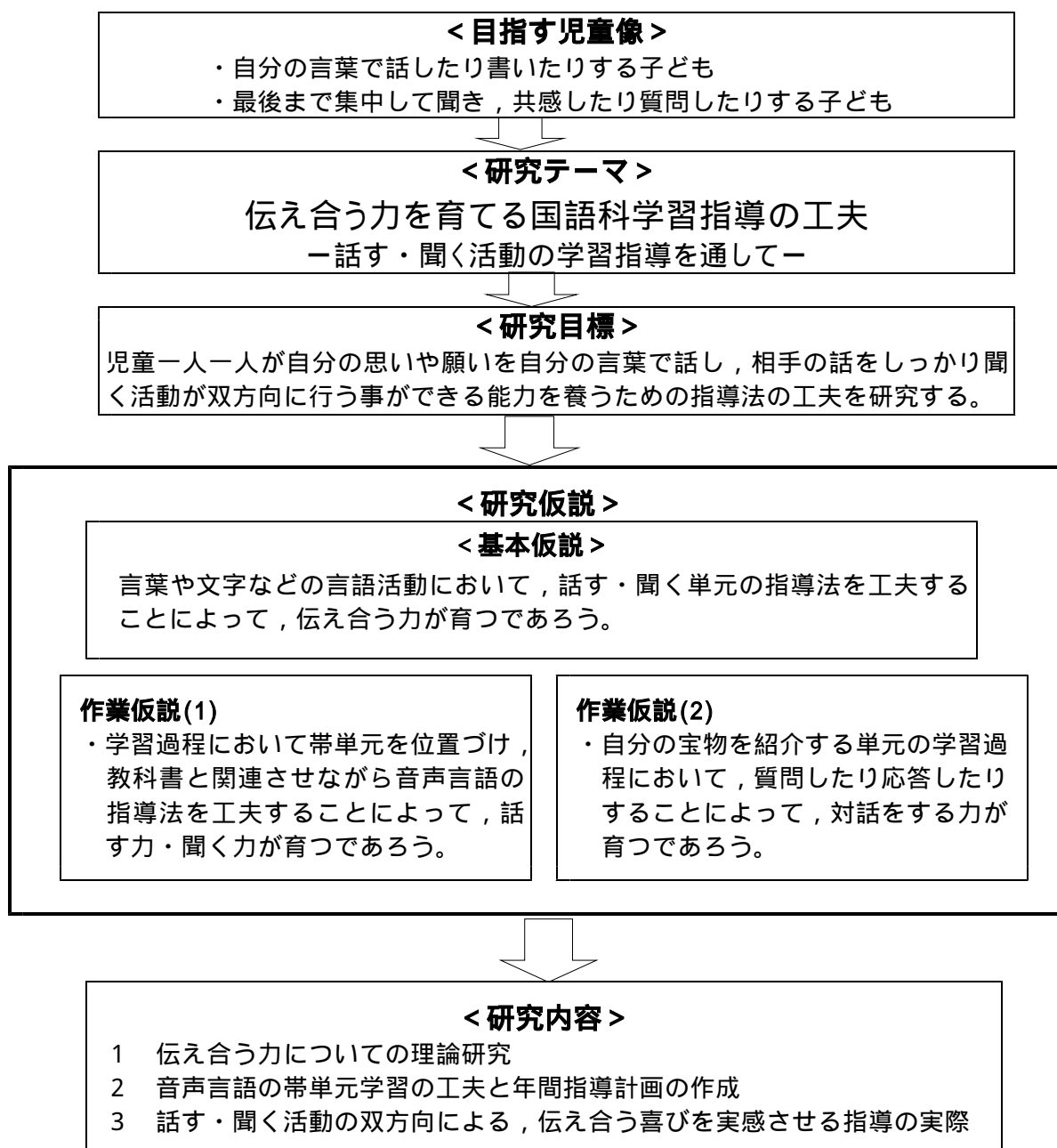
1 基本仮説

- ・言葉や文字などの言語活動において、話す・聞く単元の指導法を工夫することによって、伝え合う力が育つであろう。

2 作業仮説

- (1) 学習過程において帯単元を位置づけ、教科書単元と関連させながら、音声言語の指導法を工夫することにより、話す力・聞く力が育つであろう。
- (2) 自分の宝物を紹介する単元の学習過程において質問したり、応答したりすることによって対話をする力が育つであろう。

研究構想図



研究内容

研究内容1

伝え合う力についての理論研究

1 伝え合う力について

(1) 伝え合う力とは

学習指導要領では、伝え合う力とは「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言語を通して適切に表現したり理解したりする力である」とされている。

具体的には自分の考えを積極的にそして工夫して相手に伝えようとする態度や能力、それと合わせて相手の立場や考えも理解しようとする寛容的な聞く態度や、相手の言うことを正確に理解する能力をつける事であると考えられる。

その能力について安居總子氏は次のような点をあげている。

自分の考えを相手に理解させる力、また理解させようとする態度

相手の気持ちや意図を理解する力、または理解しようとする態度

相互に考えを出し合う中で、自らを成長させていこうとする力、及び態度

話し合いながら、自分の考えを豊かにし、整理し、結論に導いていこうとする思考力、及び態度

自分の置かれている場を意識し、そこに順応させ、そこから最良の考えを出していこうとする力、及び態度

相互に話し合うことを通して、人間関係を深めていこうとする態度

相互に話し合うことが、人間関係のもとにあることの意識

目標遂行のためには、相互に話し合うことが最良であり不可欠であることの認識

(2) 伝え合う力を育てる指導

～「伝え合い」の仕掛け～

「伝え合う」学習を成立させるためには、まず、学習の中に「伝え合う」必然性をどう仕組むかであると考えられる。「だれに」「どんな事を」「どんな方法で」「どんな場所で」伝

え合うのか その観点を示した。

「伝え合う」行為の成立

ア 誰と誰の伝え合いか

イ 1対1か、1対衆か、衆対衆か

ウ 第三者をどのような関係において「学び」を作っていくか

伝えたい事柄(知識・情報・思考・意志)

ア 送り手として伝えなければならぬこと

イ 受け手が必要としていること

ウ 伝えて考え合うことの必要な事柄

エ 相手から引き出したいこと

オ 伝え合うことで何かが見えてきたりわかったりつくれたりするテーマや材料

カ 伝え合わねば解決できないような問題や事柄

伝え合いの型(いつも受け手がいること)

ア 報告(事実と判断・考え)

イ 感想・意見

ウ インタビュー

エ 交渉、相談、討論

「伝え合い」の行われる「場」

ア 教室、教室外、学校外

イ ハレの場か、日常の場か

ウ 肉声ですか機器を使うか

エ 訓練の場か

2 「話すこと、聞くこと」の領域について

(1) 学習指導要領の目標と内容(1学年,2学年)

目標

相手に応じ、経験した事などについて、事の順序を考えながら話すことや大事な事を落とさないように聞くことができるようにするとともに話し合おうとする態度を育てる。

内容

ア 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら相手に分かるように話すこと。

イ 大事な事を落とさないようにしながら、興味を持って聞くこと。

ウ 身近な事柄について、話題に沿って話し合うこと。

(2) 1年生で身に付けさせたい話す・聞く能力

山田一氏の資料を参考に一年間の構想を学期ごとに分けてみた。段階的にいつ・どんなことを身に付けさせるか計画性のある見通しを持った指導が必要であり、あらゆる機会にあらゆる場を利用して指導していきたい。

表1 1年生で身に付けさせたい能力

	話 す 力	聞 く 力
一 学 期	<p>自分を表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はい」という気持ちのよい返事をする。 ・わからないことは「わからない」と言う。 ・口形及び発音，発声指導 ・一文として，主述のはっきりした発表をする。 ・短い話をする。 ・語尾をはっきり言う。 ・二人組での話し合いをする。 ・短いスピーチを行う。 ・おたずねタイムで質問をする。 ・作文を発表する。 	<p>相手を意識して聞く (聞く体勢づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し手の方に体と視線を向ける。 ・話し手の目を見て話を聞く。 ・うなずきながら聞く。 ・話し手の目を見て，10分間聞く。 (読み聞かせでもよい)
二 学 期	<p>相手を意識する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手の方に体を向けて発表する。 ・表情を明るく生き生きと話す。 ・広げた発言の仕方をする。 (例)わたしは と思います。みなさんはどうですか？ ・友達の意見と比較して発言する。 (例)わたしは さんと少し違います。 ・ だと思います。 ・短いスピーチは，したことだけでなく自分の感想も述べる。 ・友達のスピーチを聞いて，自分の感想を述べる。 	<p>行動+聞く(聞く技術の習得)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一学期にやったことをもう一度やってみる。 (例)・うなずく・目を見て聞く ・指示された内容を実行できる。 ・メモを取りながら聞く。 (箇条書きや単語だけでもよい)
三 学 期	<p>友達の意見につなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表につなげて意見を述べる。 (例) さんに付け加えます。 ・ だと思いましたが，みなさんはどうですか？ ・四人グループで話し合う。 ・一分間スピーチでは，質問に対して的確に答える。 (例)答えられない時 わかりません。後で調べておきます 	<p>話すことを意識して聞く (聞くから発展させた内容へ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の「キャッチボール」ができるようにする。

(3) 「話すこと・聞くこと」の「場」づくり

学習は「言葉」を使って考える言語活動である。そして，その言語活動は，必ずある場において行われる。「誰に」対して，「何を目的に」話すのか，「誰の」話を聞くのかが重要になってくる。

学習の場は学習者にとって，「～したい」

「～しなければ」という実感に支えられた，必要感のある場である。

現実の言語生活の実態や機能を見通しつつ，目的をもった学習の場であり，創造された場である。

言語活動の質や内容が多様化し，言語の理解や認識，運用能力が高まる場である。

(4) 学習材について

学習材は学習者の前に学習を展開するために準備される物の総称である。学習が成立するためには学習材が必要であるが、使用する学習材がどれだけの価値を持っているか、学習者に機能しているかを指導者は常に吟味する必要がある。それで、次の点に留意したい。

学ぼうとするテーマや内容が、学習者の興味・関心を引き出し、意欲を持って取り組んでいるか。

指導目標（価値の追究，知の構築）を達成し、育てたい力（言語力・言語行動力・言語生活力）をつけることが予定されているか。

学習が展開しているときは、学習者の言語行動、及びその場面、学習によってつくられていく、もの・ことを随時とらえ、それらが学習全体にどのようにかかわっているか、学習材として何が機能しているかを見きわめる。

3 対話について

(1) 対話とは

対話とは、1対1や1対複数で向かい合って話すことである。さらにお互いが、言葉や表情や身振りなどの交流を通して相互に影響しあい、情報や感情を共有しつつ目的にたどり着こうとする過程である。一方通行の伝達ではなく、まさに相互交流や伝え合う活動の基本は対話にあると言える。

対話は「言葉のキャッチボール」とも言われるが、ただ受けた言葉を返すだけではない。補足したり、話を広げたり、質問をしたり、反論を述べたりということを繰り返しながら双方の認識が深まっていく、というところに対話の持つ特性がある。

話す・聞く能力を育成するためには、それを分けて指導するよりも、実際に相手を立てて、相手の話を聞かなければ言葉を返すことのできない状況を作り、体験させることが大切である。その体験を通して、話す・聞く能力が育っていく。対話活動はその状況を容易に作り出すことができるのである。

(2) 対話指導の要点

対話指導の向上を目指すとき次の点があげられる。

主体的な聞き手を育てる。

- ・話を積極的に聞こうとする構えを作る。
- ・重要なものは何かを考えながら聞く。誠実な態度を育てる。
- ・話が分かるように区切ってゆっくり話す。
- ・互いに考えを広げ深め合うように心がけながら話す。
- ・相手のよさを見つけるように話す。豊かな言語技能を養う。
- ・分からないところや不十分な部分は、進んで尋ねたり確かめたりする。また、それに素直に答える。受け答えの能力を身につける。
- ・相手の考えを聞いて自分の考えを手短かに伝えられる。

研究内容2

< 作業仮説1 >

音声言語の帯単元学習の工夫と年間指導計画の作成

1 帯単元について

(1) 帯単元とは

帯単元とは帯のように細長く、つまり短時間で継続的・計画的に扱う単元のことである。従って、年間を通して教科書の単元と関連させながら位置づけて指導していく。計画の中にスキル学習や学び方を位置付けることもでき、話す・聞く、読む、書く等の活動を段階的・継続的に繰り返し指導していく。

(2) 帯単元学習の意義

- ・短い時間(朝の学習の時間・帰りの会など)を有効に使って指導できる。
- ・1単位時間の授業の中で15分、または30分のモジュールで組み合わせで行う事が可能である。
- ・計画の中にスキル学習や学び方を位置づける事ができる。
- ・体験活動や他教科と関連させ、その都度指導できる。
- ・話す・聞く、読む、書く等の活動と段階的、継続的に位置づける事ができる。

(3) 話すこと・聞くことの帯単元学習の年間指導計画の作成

国語科の教科書の話す・聞くの単元と他教科及び学活と関連づけて作成した。
 毎月の詩は発達段階、季節感、リズム感などを考慮して選択した。
 今後も指導の中で、実態に即して修正を加えながら実践していく。

表2 年間指導計画

月	国語科（話すこと・聞くこと）教育出版1年	帯単元（話すこと・聞くこと）		「話すこと・聞くこと」と関連する 教科及び学活		
		通年	1時間単位		15分単位	
一 学 期	4	絵 本 の 読 み 聞 か せ の 会 の ス ピ チ	上手な話し方・聞き方の心構えと姿勢 ＜学びの手引きを使用＞（国語1時間）	口形指導 口の体操 ・レロレロ体操・オエオエ体操・ウイア体操	「どうぞよろしく」の会（学活1時間） ・時分の名前、幼稚園・保育園のこと、家 のこと、好きなものなどを発表する。 がっこうたんけんでみつけたよ （生活3時間） ・学校探検で見つけたことや行った所を発 表し合う。 1学期にがんばったこと（学活1時間） ・一学期を振り返り、自分が頑張ったことや 友達が頑張ったことを発表し合う。	
	5		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> あいてのかおをじっとみて いいね、ことばのキャッチボール うんうん、なるほど、それいいね えがおでにこにこ、はなす、きく おおきくはっきりはなそうね </div> おはなしきいて（日記）（国語1時間） ・昨日の出来事を日記にかいてお話しする。 ぼくのわたしのねがい（園工1時間） （七夕集り） ・自分の願いを短冊に書いて七夕飾りを作る	4月の詩「あいうえお」あらいけいこ / 作 しりとり遊び		「どうぞよろしく」の会（学活1時間） ・時分の名前、幼稚園・保育園のこと、家 のこと、好きなものなどを発表する。 がっこうたんけんでみつけたよ （生活3時間） ・学校探検で見つけたことや行った所を発 表し合う。 1学期にがんばったこと（学活1時間） ・一学期を振り返り、自分が頑張ったことや 友達が頑張ったことを発表し合う。
	6			5月の詩「たんぼぼさいた」まどみちお / 作 スピーチワーク 「あいさつしたらきもちいいね・・・。」		
	9			6月の詩「かいだん」「あ」 スピーチワーク 「やすみじかん、ともだちをあそびにさそおう」		
	10			7月の詩「おと」工藤直子 / 作 スピーチワーク 「しよくいんしつにいったら、どうはなせばいいの？」 早口言葉遊び		
	11			8月の詩「おと」工藤直子 / 作 スピーチワーク 「しよくいんしつにいったら、どうはなせばいいの？」 早口言葉遊び		
12	9月の詩「おじいちゃんのおとし」庄司武 / 作 スピーチワーク「わたしのすきなたべものは・・・」					
二 学 期	9	か せ の 会 の ス ピ チ	なつやすみスピーチ（国語1時間） ・夏休みの楽しかった思い出を発表する。	口の体操 9月の詩「おじいちゃんのおとし」庄司武 / 作 スピーチワーク「わたしのすきなたべものは・・・」	2学期にがんばりたいこと（学活1時間） ・一学期の学習面や生活面を振り返りよかつた ことよくなかつたことを話し合い二学 期のめあてをたてる。 おはなしだいすき（園工4時間） ・お話を聞いたり、読んだりして思いを膨 らませて絵や立体に表し、表したかつた ことを発表する。 かかりかつどうのはっぴょうかいをしよう （学活1時間） ・各係ごとに、活動の頑張っている様子を 発表する。 2学期に頑張ったこと（学活1時間） ・二学期を振り返り、自分が頑張ったこと や友達が頑張ったことを発表し合う。	
	10		ぼくのわたしの大好きな本（国語1時間） （読書郵便） ・お気に入りの本を友達に紹介する。	10月の詩「いるか」谷川俊太郎 / 作 スピーチワーク 「そうじのはんせいかい、なんていえばいいの？」		
	11		運動会がんばるぞ！（体育1時間） ・運動会に向けて頑張りたいことなど めあてをたてて発表する。	11月の詩「こおろぎでんわ」みずかみかずよ / 作 スピーチワーク 「わたしのすきなてれびばんぐみは・・・」 「そのわけは・・・」 なぞなぞあそび		
12	おはなしどうぶつえんをつくらう（5時間） ・今までに読んだ本の中から好きな本をえらび知らせ 合う。	12月の詩「なわとび」芦村公博 / 作 スピーチワーク 「たすけてもらったよ、うれしかったよ」	おはなしだいすき（園工4時間） ・お話を聞いたり、読んだりして思いを膨 らませて絵や立体に表し、表したかつた ことを発表する。 かかりかつどうのはっぴょうかいをしよう （学活1時間） ・各係ごとに、活動の頑張っている様子を 発表する。 2学期に頑張ったこと（学活1時間） ・二学期を振り返り、自分が頑張ったこと や友達が頑張ったことを発表し合う。			
三 学 期	1	ス ピ チ	あたらしい年だよ（国語1時間） ・新年をむかえて今年の抱負を発表する。	口の体操 1月の詩「みかんのへや」与田準一 / 作 スピーチワーク 「わたしががかってみたいどうぶつは・・・」	おてつだいめいじんになったよ （生活3時間） ・家の人の仕事や家の人得意なことを発 表する。 ・家の仕事の中で、自分でできることやし たいと思う仕事を発表する。 もうすぐ2ねんせい（生活6時間） ・入学してからのことを振り返って、思い 出に残ったことや自分ができるようにな	
	2		ぼくのゆめ、わたしのゆめ（生活1時間） ・「大きくなったら・・・」将来の夢を発 表する。	2月の詩「ちいさい・おおきい」香山美子 / 作 スピーチワーク 「もし、ドラえもののポケットがあつたら・・・」		
	3		早口言葉大会（国語1時間） ・自分が挑戦してきた早口言葉をみんなに 披露する。	3月の詩「はる なつ あき ふゆ」工藤直子 / 作 スピーチワーク「でんごんゲームをしよう」		

1時間単位は45分とする。

49時間

1時間 x 9回 = 9時間

15分 x 28回 = 420分(9時間15分)

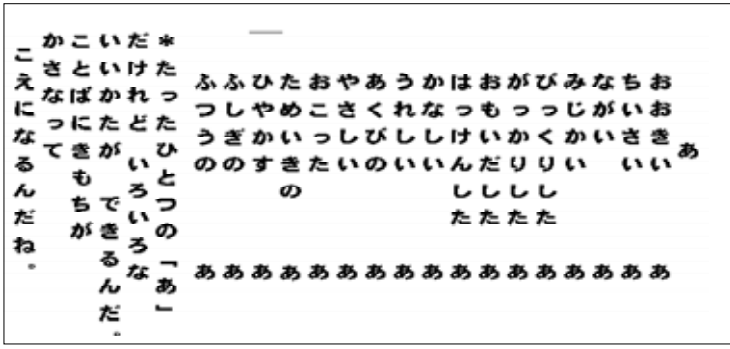


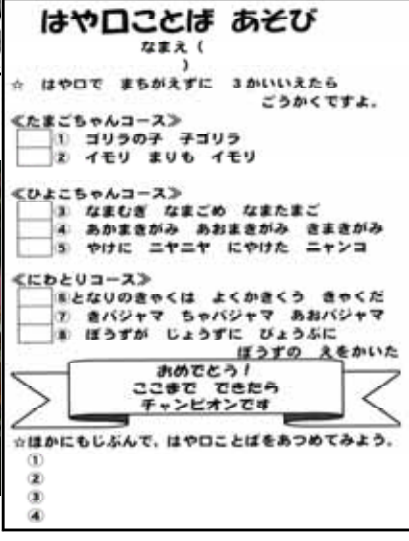
21時間

(4) 話す・聞く力を育てる帯単元学習の実際

まず、「上手な話し方・聞き方」とはどういうものか、学びの手引きを利用し話すこと・聞くことの姿勢や態度から導入し、学習時はいつでも意識させるようにした。さらに話すためには、話す内容をしっかりまとめておかなければならないと捉え、原稿を書く作業も取り入れた。また、スピーチワークの題材は、誰でも抵抗なくすぐ書ける様な「好きな食べ物は？」「好きなテレビ番組は？その理由は？」などにし、他人と違うもの、または共通し合える話題など、誰かに伝えたいという意欲付けができる物を選択した。そして、スピーチを1文から2文へとだんだん増やしていくことで内容の広がりも出てきた。帯単元は、意図的、計画的、継続的にそれぞれ数回繰り返し行った。表3にその一部を紹介する。

表3 帯単元学習の実際

項目	ねらい	学習材と方法	児童の様子と結果
読み聞かせ	<ul style="list-style-type: none"> 絵本に興味を持たせると同時に聞く姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の読書の時間を利用して数回行った。 興味津々に聞き入る姿が見られた。大型絵本だと更に効果的！ 	 <p>朝の読み聞かせの様子</p>
学びの手引き	<ul style="list-style-type: none"> 良い話し方良い聞き方を理解させ、実行するように意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> いつも学習の始めに確認し、めあてを持つ基準となる。毎時間の評価にも入れていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>一口の体操 一口をしっかりとあけて ウイア ウイア イアウ イアウ アオウ アオウ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>二口 口の形に気をつけて はぎれよく イ・エ・ア・オ・ウ イ・エ・ア・オ・ウ</p> </div>	 <p>学びの手引き</p>
口形指導/口の体操	<ul style="list-style-type: none"> はっきりした口形で聞きやすい発声の仕方を練習し、言葉がスムーズに発せられるようにする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>くちびるの動きに くちびるの動きに 気をつけて オエ オエ オエ オエ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>レロレロレロ レロレロレロ レロレロレロ レロレロレロ</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 口をなかなか開かなかった児童が、口形を意識させることで声がよく出るようになった。  <p>口の体操の様子</p>

<p>詩の音読</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムよく音読する楽しさを味わう。 ・詩からいろいろな言葉の広がりを持たせる。 		<p>詩「あ」</p>
<p>スピーチワーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話す内容を、シートに書き、話す練習をする。1文から2文へ、更に理由をつけ加えたり実態に応じて徐々に文を増やしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の事や簡単な内容から取り組むことで、どの子も抵抗なくすらすら書くことができ。書く力もついた。 ・自信を持って話すことができた。
<p>早口言葉遊び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・滑舌をよくし、早口で唱える楽しさを味わう。  <p>早口言葉あそび</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・レベルを分ける事でチャンピオンを目指して失敗しても何度でも挑戦していた。家でも家族で楽しんでいる様子も見られた。 ・インターネットで調べ、独自の言葉遊びを楽しんでいた。
<p>イメージマップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージをふくらませ書く力をつけ話すことへつなげる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・話す名人、聞く名人たからもの、自分さがし、など、ある項目において自分のイメージをふくらませる事ができた。

1 単元名 はなす名人・きく名人になろう

2 学習材

「わたしのたからもの」(光村図書1年下),
各児童の秘密の宝物, 学習の手引き,
ワークシート(発表用・質問用),
幼稚園の先生からのお手紙

3 単元について

(1) 学習材について

1年生も終わりに近づいてきている。これまで、「話すこと・聞くこと」の領域において、1学期に「はなしたいなききたいな」の単元で日常生活の中から見たり聞いたりしたこと、経験したことを進んで話すという口頭作文単元を学習している。2学期には「あさごはんはおさわぎ」の単元で絵の中の登場人物になって想像力をはたらかせ、会話文を作っていくおもしろさを味わう学習をしてきた。

本単元「はなす名人・きく名人になろう」は「話すこと・聞くこと」の学習の積み重ねに立って、児童の身近な話題と考えられる「たからもの」を題材に光村図書1年下の特設単元[わたしのたからもの]を学習材にし、「話すこと・聞くこと」の技能や態度等の全般について、確認しながら定着を図っていく。

児童はその子なりのいろいろな「たからもの」を持っている。自分で飼っているペット等の生き物を「たからもの」と考える児童もいるであろうし、「おとうさん」や「おかあさん」など家族をそう思う児童もいるであろう。今回は学校に持ってくるのが可能な具体物に限定するが「たからもの」には、物や思い出などもっと広くいろいろな「たからもの」があることを具体例を挙げながら説明して行くことにも留意したい。

そして、自分の持ってきた宝物はもちろん、その他の身の回りのすべての物が学習材にな

りうることも子ども達にも気づかせていきたい。また、宝物について心の中にある思いをワークシートにまとめることでより明確になり、質問事項もイメージしながらあらかじめまとめておくと発表会での応答がスムーズに行えると考えられる。発表会では、発表用・質問用のワークシートを手元に置いて活用することにした。

本時、次時(幼稚園での発表会)予告では、幼稚園の先生からの手紙を読み上げることで、次時への意欲の喚起に効果的ではないかと考え用いることにした。

そこで、今回は宝物を紹介することから、相手にわかるように話すこと、友達の話について尋ねたり応答したりすることを重点に本単元「はなす名人・きく名人」を設定した。

(2) 児童について

本学級の児童は、明朗で好奇心旺盛である。絵本の読み聞かせが大好きで食い入るように集中して聞いている。話すことに関しては友達同士活発におしゃべりをしたり、授業の中で自由発言を楽しんでいるが、いざ、改まった場になると、声が小さく、自分の言いたいことがうまく言えなかったりする児童も少なくない。「話すこと・聞くこと」のアンケートの結果によると、約10%の児童が、「発表することが嫌い」と答えている。「発表するとき、どきどきする」が約61%で、「答えがわかっていても手を挙げない」が23%、その理由として「まちがっていたらいやだから」「はずかしいから」と答えている。

また、「お話を聞く時や、読み聞かせの時に気をつけていることは？」には、「しずかにきく、しせいをよくする、しゃべらないできく」と答えている児童が多く、「発表する時に気をつけていることは？」には、「大きな声で言う、まちがえないように言う、ゆっくりと言う」と答えている児童が多い。

このような実態から「話すこと・聞くこと」の態度面や技能面の理解はしているが実践力が伴っていないと思われる。話し方・聞き方の基本的なルールを身に付けさせた上で、上手な聞き方が上手な話し方につながるという

相互関係を理解させる。同時に話すことの大切さや楽しさを実感させ、意欲的に思いや考えを適切に伝えることのできる児童をめざしていきたい。

(3) 指導について

本単元では、自分の大切にしている宝物について、友達に分かりやすく話そうという目的のもとに学習を行う。単元のねらいを達成するために、これまで、帯単元において、学びの手引きを使って、よい話し方・よい聞き方について確認し、聞く態度を養うために絵本の読み聞かせ、話すための言語感覚を養うために、口形指導、口の体操、詩の朗読、言葉遊びとして、しりとり・早口言葉、ワークシートを用いてスピーチワークなどを導入し、声を出す楽しさや友達に伝える喜びを味わわせている。

また、人に伝えるためには、自分の考えをまとめなければならないと考え、ワークシート書きやイメージマップ書きも取り入れた。

帯単元は、特に集中力の短い低学年においてこそ効果的であり、このような基本的な事項を短時間で繰り返し指導し、少しずつ積み重ねていく事の必要性を感じている。さらに、「話すこと」「聞くこと」の一体化を図り、聞き方の指導にも力を入れることにより話し手と聞き手が共に成長すると考えられる。

まず、指導過程の第1次では、教師の宝物の話の聞かせることにより、学習の意欲を高める。また、話し合いをしているCDを聞かせ、自分の考えや思いがみんなに分かるように話すには、どのような話し方をしたら伝わるかを考えさせる。技能面からは、はっきりした口形でゆっくり話す、聞き手の方を向いて話す、聞き手は話の内容がより分かりやすくなるということを理解させる。

指導過程の第2次では、話す内容を分かりやすくするための手だてとして、下記のようなワークシートを活用し、次の5つの観点から話す内容を整理し、指導過程の第3次の発表会に臨むことにしたい。また、併せて質問用のワークシートも記入しておく。

そして発展学習として、前時とは場所や話

す相手を変えて幼稚園児を対象に発表会を行う機会も設定した。

そこで今回は各自の宝物を秘密にしており、発表会の場面で友達の宝物について知りたいことを尋ねたり、尋ねられたことに応答したりして話を深めていくようにする。

また、お互いの宝物を披露し合ったり、感想を相互に交流することで児童のものの見方や考え方が広がり、友達に共感する態度が育つのではないかと期待できる。

このように自分の考えや思いを相手に伝える力は、国語科に限らず他教科へも大いに影響しうるのではないかと考え、生活全般につながるような実践力を培っていきたい。

<発表用ワークシートの内容>
たからものなまえはなんですか。
なぜ、たからものなんですか。
いつから、たからものですか。
そのたからものの、どこがきにいていますか。
そのほかにみんなにつたえたいことはなんですか。

<質問用ワークシートの内容>
ともだちの たからものについて
おたずねしたいことをかこう
例・どなんいるですか。
・大きいですか。小さいですか。
・どこに おいているんですか。
・いつから たからものですか。
・どこが きにいていますか。


4 単元目標

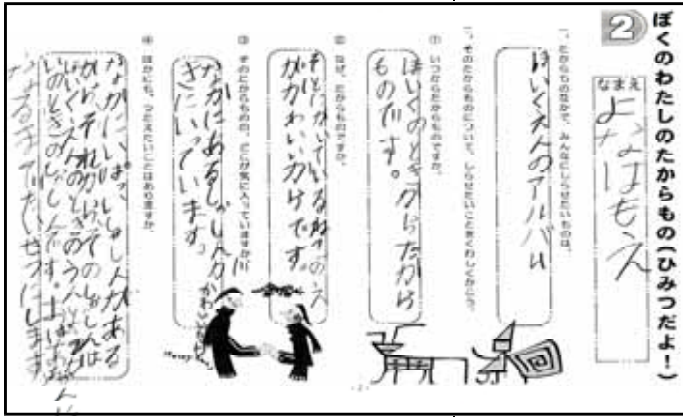

- (1) 自分の宝物について、はっきり話したり、友達の話に興味を持って聞いたりしようとしている。(関心,意欲,態度)
- (2) 聞き手にわかるように伝えたいことをはっきりさせて話したり、友達の話に興味を持って聞き、知りたいことを質問したりすることができる。(話す,聞く)
- (3) 自分の宝物について、伝えたいことを骨組みに基づいて書くことができる。(書く)
- (4) 聞き手に伝わるように、声の大きさに気をつけてはっきりした発音で話すことができる。(言語事項)


5 単元で身に付けたい力

観 点	身 に つ け た い 力
関心・ 意欲・ 態度	<ul style="list-style-type: none"> 自分の宝物について進んで話し、質問に答えようとするとともに、友達の話の共感的な態度で聞く。 自分や友達のよいところを見つける。
話すこと ・ 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 自分の宝物を選び、内容を考えながら友達にわかるように話す。 友達の宝物は、どんな物が興味を持って聞く。 聞きたいことを尋ねたり、尋ねられたことに答えたりする。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 友達に伝えたい内容を、わかりやすくくわしく書く。
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢・口形などに注意して、はっきりした発音で話す。

6 指導計画（全8時間）

次	時	学習活動と内容	主な支援	評 価	単元との関連
一 次	1	宝物紹介の仕方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> 担任の宝物の話を書く。 話し合いの仕方のCDを聞く。 宝物の紹介の仕方を確認し学習の見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的を意識した話し方や聞き方を考えさせる。 良い話し方を見つけるように意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを理解しようとしている。[観察] 	<ul style="list-style-type: none"> 良い聞き方、話し方 絵本の読み聞かせ
二 次	1	自分の宝物を思い浮かべ、友達に伝えたい物を選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 自分が大切にしている物をできるだけたくさん思い浮かべる。 その中から友達に知らせたい物をひとつ選ぶ。(ワークシート)  <p style="text-align: center;">図1 自分の宝物を思い浮かべる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校に持って来ることが可能な具体物に限定して考えさせる。 言葉だけでなく、絵で表現しても良いことにする。 クイズにするため友達には内緒にしておく事を約束する。 	<ul style="list-style-type: none"> 宝物をできるだけたくさん思い浮かべワークシートに書くことができる。[ワークシート] 自分の宝物について大事なことを落とさずにワークシートに書くことができる。[ワークシート] 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチワークシート書き

<p>二 次</p>	<p>自分の宝物について，友達に伝えたい内容を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨組みにもとづいて伝えたい内容を書く。（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に伝える事をイメージしながら書かせる。 ・宝物である理由や，気に入っている事など5つの観点で書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチワークシート書き
<p>2</p>	 <p>図2 自分の宝物について伝えたいこと</p>		
<p>三 次</p>	<p>友達の宝物について知りたいことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会のルールを話し合う。 ・質問事項を考える。（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会をイメージさせる。 ・友達の宝物のどんなことを知りたいかイメージさせながら書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式でのやりとりの仕方を理解している。 [ワークシート] ・スピーチワークシート書き
<p>1</p>	 <p>図3 友達の宝物について尋ねたいこと</p>		
<p>三 次 本 時</p>	<p>宝物大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の宝物をクイズ形式で紹介する。 ・話し方や聞き方の感想交流や自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い話し方・聞き方を確認する。 ・クイズのルールの確認をする。 ・感想交流では，マニュアルを提示し，いいところ（内容面，技能面）の視点を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの顔を見て話すことができる。 ・知りたことを尋ねたりしている ・出題に対して答えようとしている ・良い聞き方，話し方 ・言葉遊び ・スピーチワーク

1	<p>幼稚園児に宝物を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児には、もっとわかりやすく説明しないと相手が理解できないので、園児を意識して発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児にもわかるような話し方に気を付けるようにさせる。 ・わかりやすいようにヒントをたくさん出すようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に発表しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい聞き方話し方
		<p>図4 幼稚園での発表会の様子</p>		

7 本時の指導（7 / 8）

(1) 目標

宝物について、事前の学習のワークシートを生かして発表したり、知りたいことを質問したりして、相互交流でお互いの思いを伝えることができる。

(2) 授業仮説

宝物を紹介する場面において、伝えたいことを発表用ワークシートを活用することにより、自信を持ってわかりやすく伝えることができるであろう。

発表会をクイズ形式にして、宝物について知りたいことを質問したり答えたりするやりとりの場を設定することにより、興味を持ち最後まで集中して聞く姿勢が育つであろう。

(3) 展開

主な学習活動	主な支援	評価
<p>1 言葉遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口の体操 ・ことばあそび <p>2 今日の学習のめあての確認をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「ぼくの わたしの たからものはっぴょうかい」をしよう。</p> </div> <p>3 よい話し方をイメージマップ「はなす名人」(図5)、よい聞き方をイメージマップ「きく名人」(図6)を使って話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の雰囲気を作り、声を出す事への意識づけを図る。 ・楽しい雰囲気を始められるように留意する。 ・帯单元を通して学習してきたことを想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを確認できる。

予想される児童の反応

<良い聞き方>

- ・しずかに聞く
- ・うなずきながら聞く
- ・最後まで聞く

<良い話し方>

- ・聞き手を見て話す
- ・ゆっくり話す
- ・大きな声で話す
- ・笑顔で話す

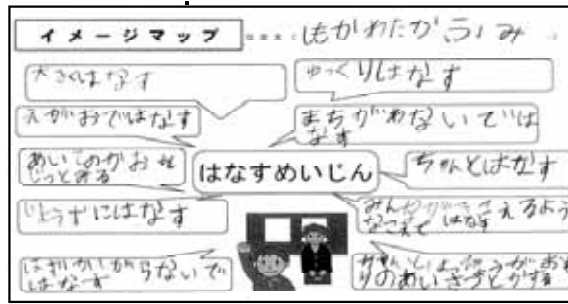


図5 イメージマップ はなす名人



図6 イメージマップ きく名人

4 「ひみつのたからもの」発表会をする。

<発表会マニュアル>

- ・「この中に私の宝物が入っています。聞きたいことはありませんか？」
質問は2, 3問に限定し応答する
- ・「では、中に入っている宝物は何でしょうか？」
2, 3人に回答させる
(すぐに正否は言わない)
- ・「私の宝物はこれです」
中に入っている宝物を初めて明かす
他に伝えたいことを話す



図7 宝物について質問しようとしている様子

発表者への支援

- ・ワークシートに書いた内容をなるべく覚えて、応答できるようにさせるが、念のためワークシートは持たせておく。
- ・応答の基本的なルールを守るようにさせる。
- ・質問からそれずに分かりやすく答えられるようにさせる。
- ・声の大きさや、態度など良かった点をその都度ほめるようにする。
- ・自信がなさそうにしている児童へは、安心できるような声かけをする。
- ・個の宝物を把握しておき、応答のつまずきを支援する。

質問者への支援

- ・話題がそれないように質問用ワークシートを生かして質問するようにさせる。
- ・質問者が偏らないように多くの児童へ投げかけるようにする。

- ・上手な話し方・聞き方について話し合い
良い話し方・聞き方についてわかる。

(話す, 聞く)

- ・教室の友達に聞こえるような声の大きさと話することができる
(言語事項)

- ・質問されたことに分かりやすく答えることができる。
(話す, 聞く)

- ・話題に沿って考え、聞きたいことを質問することができる。
(話す, 聞く)

- ・友達の話に共感しながら最後まで聞くことができる。
(話す, 聞く)

< 各児童の宝物の種類 >

- ・ 図鑑
- ・ トランプ
- ・ メダル
- ・ ゴム鉄砲
- ・ 石
- ・ 人形
- ・ 写真
- ・ オルゴール
- ・ 猫
- ・ コースター
- ・ 数珠
- ・ ぬいぐるみ
- ・ カード
- ・ 貝がら
- ・ アルバム
- ・ 望遠鏡
- ・ 作品表

< 本時の発表者の宝物 >

- A男・・・コースター
- B男・・・ゴム鉄砲
- C男・・・太陽の石
- D男・・・貝がら
- E子・・・万華鏡
- F子・・・ぬいぐるみ

5 学習のまとめをする。

- ・ 発表会での話し方、聞き方について良かったことや思ったことをワークシートにまとめ発表する。



図9 発表者に「はなす名人」賞

6 次時の学習について知る。

(4) 評価

- ・ 自分の宝物について、事前の学習のワークシートを活用して発表することができたか。
- ・ 友達の発表に興味を持って最後まで聞くことができたか。

- ・ 友達と同じ質問をしないように気をつけさせる。



図8 「わたしのたからものはこれです。」と宝物を披露している様子

- ・ 態度や内容面など、いろいろな観点からいいところを認め合うようにさせる。

- ・ 発表者へは、「はなす名人・きく名人」の賞状をあげ、次の意欲へつながるように褒めてあげる。

- ・ 幼稚園の先生からの「心待ちにしています。」とのお手紙を読み、幼稚園児にも宝物を紹介することを知らせ意欲を持たせる。

- ・ 自分の頑張った事や友達の良かった点を見つけることができる。

(関心,意欲,態度)

研究の考察

1 作業仮説(1)の検証

学習過程に帯単元を位置づけ、教科書単元と関連させながら、音声言語の指導法を工夫することにより、話す力・聞く力が育つであろう。

(1) 音声言語の指導について

- ・帯単元を構成し、朝の学習時間や授業開始の15分間を使って話す力・聞く力が育つよう音声言語学習の実践を試みた。

(2) 結果

児童の様子

帯単元において、音声言語の指導を導入することによって、話すこと・聞くことについて次のような変容がみられた。

- ・話を聞く時、話し手の顔をじっと見たり、うなずいたりして聞くようになった。
- ・口がなかなか開かなかった児童がしっかりと口形ができるようになった。
- ・大きな声が出せなかった児童が、みんなに聞こえるような大きさの声で話すことができた。
- ・話す時、直立できずに下を見てモジモジしていた児童が、聞き手の顔を見て話すことができた。
- ・どの児童も発表の時、わくわくしてうれしそうな表情が見られた。
- ・聞き手を見て、笑顔で話そうと意識している様子が見られた。

児童の感想

「はなす名人・きく名人」のお勉強で楽しかったことや頑張ったことは何ですか？

- ・はっぴょうするとすっきりするからすき。
- ・はなすときのしいきもちがいっぱいですき。
- ・はっぴょうするときときどきする。なぜかという、ちゃんといいたいことははっきりいえるかなとおもえ。
- ・はっぴょうのとき、ときどきしてもいえたのがよかった。きくめいしんははなすひとのきもちをかんがえながらきく。
- ・わたしが、いちばんがんばったことは、口のたい

そうで、大きく口をあけられたのをがんばったとおもいます。

- ・きくときに、たいいくすわりとか、よいしせいとかをがんばった。
- ・つぎのはっぴょうのときもおじぎをわすれずにやりたいです。
- ・きんちょうしたけど、にこにこしてはっぴょうした。

事前事後のアンケートより

「はなす名人・きく名人」の学習の前後に、アンケートを実施した。

ア) 発表することはすきですか？

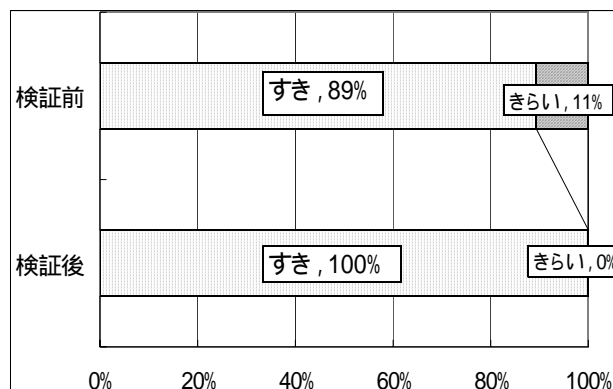


図11 発表することはすきですか？

「発表することがすき」と答えた児童は、検証前は89%だったが、検証後は100%になり、全員が喜んで発表していることがわかる。

発表が好きな理由として、アンケートに次のことを書いている。

発表が好きなわけ

- ・いろいろな人に、いろいろなことをつたえられるから。
- ・はっぴょうするとき、とてもすっきりしたようなかんじがする。
- ・みんなにどんなことをいいたいかを、つたえられる。
- ・みんながじぶんをみているので、ときどきする。

イ) 質問したい時、手をあげますか？

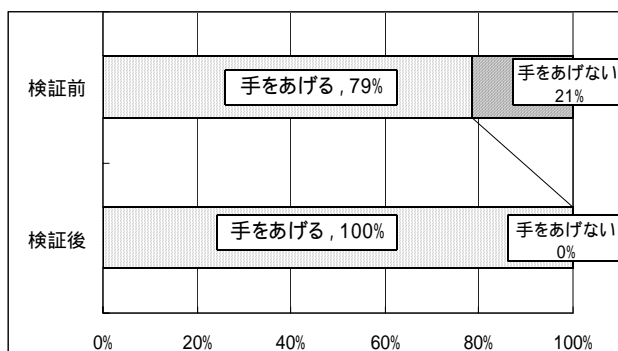


図 1 2 質問したい時 手をあげますか？

- ・これまで、わかっている手もあげなかったり、聞きたいことがあっても手をあげて質問することができなかった児童は検証前は 21%いたが、検証後は 100%の児童が挙手をしていると答えている。(図 12)

(3) 考察

- ・スピーチワークで話す事柄をあらかじめメモしておくとうわりやすく話すことができた。スピーチワークでは、一行スピーチから行い、徐々に増やしていくと、人前での発表も抵抗なくわりやすくてきた。
- ・発表が好きな児童が増え、話したいことや質問したいとき手を挙げる児童が増えたことから、帯単元学習により話すことに自信が持てるようになった。
- ・どの児童も発表の時、「ときどきする。」「うれしくてわくわくする。」「みんなが聞いてくれるのでうれしい。」「またやりたい。」などと意欲が高まり、喜んで発表している。
以上の結果からわかるように、帯単元による音声言語の指導法工夫をすることにより、話す力・聞く力が育った。

2 作業仮説(2)の検証

自分の宝物を紹介する学習過程において、質問したり、応答したりすることにより対話をする力が育つであろう。

(1) 発表会の環境作りと相互交流の場の設定について

- ・児童が「伝えたい！」と意欲が湧くように、学習材を身の回りに存在する「わたしのたか

らもの」を用いる事にし、宝物について自分が伝えたいことをいくつかの観点からワークシートにまとめた。また、友達の宝物について、尋ねたいことをワークシートにまとめ発表会に臨むことにした。発表会は、宝物を秘密にしておき 紹介する際にはクイズにして、中身について質問・応答を数回重ねていくうちに、宝物が何であるか明らかになる様に設定した。

- ・発表の際、宝物を入れる箱を大小いろいろな形の箱を装飾し、宝物の大きさに関係なく選ばせた。



図 1 3 多様な大きさの箱を自由に選択した

- ・座席はコの字型にし、聞き手に宝物や顔が見えやすいように、そして発表会の雰囲気が出るような設営をした
- ・発表会終了後は、「はなす名人・きく名人」に認定し、褒める場を設定した。



図 1 4 認定の賞状

(2) 結果

児童の様子

- ・伝えるためのワークシートの記入にあたっては、普段の学習で鉛筆のなかなか進まない児童に、「どうして?」「それから?」「ほかには?」と問いかけ、口頭で答えることができた。そのままを記述させることで書き上げることができた。
- ・宝物を秘密にしておくことで、中身に興味を持ちわくわくしながらしっかり聞いている姿が見られた。中身が明かされた時には「わぁ～すご～い!」「やっぱり!」などのつぶやきが聞かれた。
- ・数回の質問・応答の中から児童は箱の中の宝物を「どれぐらいの大きさだろう?」「中に入っているのは何だろう?」と思い思いにイメージし発表することができた。
- ・発表した児童は宝物を披露した時、すごく誇らしげで、にこにこ満足した表情であった。発表会のやりとりの一事例
- ・授業中、発表会の一部を下記に紹介する。発表者A男の宝物について、知りたいことを質問し、発表者A男はそれに応答している場面である。質問者は3人までとし、その後は中身を当てさせる。発表会の場で相互に交流できた。

授業中のやりとりのひとコマ(発表者A男)

A男・・・この中には私のたからものが入っています。ききたいことはありませんか?

B子・・・いつからたからものですか?

A男・・・6歳からです。ほかにありませんか?

C男・・・なぜたからものなんですか?

A男・・・学童の先生と一緒に作ったから、世界に一つしかないからです。ほかにありませんか?

D子・・・どんなときに使いますか?

A男・・・遊ぶ時に使います。ときどき弟達にもかしてあげます。では、宝物はなにをかをあててください。

E男・・・えんぴつけずりですか?

F男・・・竹馬ですか?

G子・・・トランプですか?

A男・・・ぼくの宝物はこれです。

(答えは言わずに巨大な箱の中から、ゴムでつぼうを出して見せた。)

箱が大きいのに小さなゴムでつぼうであった。「大きいと思った～。」「自分で作ったの～。」「色もきれいに塗ってるね!」とつぶやきがあった。

他に伝えたいことは?

A男・・・このゴムでつぼうは、遠くまで飛びます。こわさないように大事に遊びたいです。

- ・他の児童が発表の際にも同様に、質問したり、応答したり活発にやりとりする場面が見られた。
お互いを認め合う感想
- ・発表会後はがんばっていた友達を発見させると次の様な感想があった。

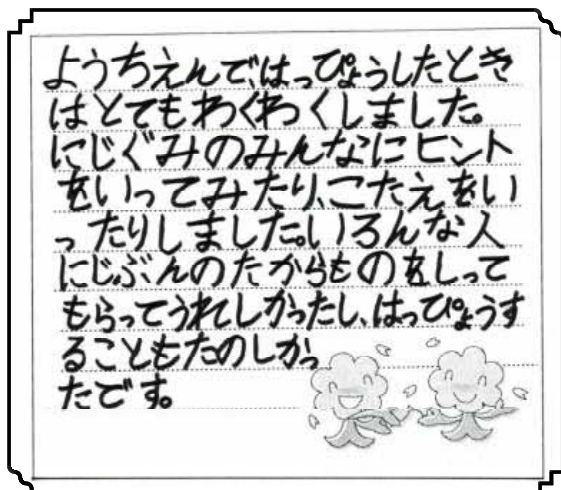
がんばっていたおともだちはっけん!!

- ・さん、さん、さん、さん、さんがとってもいいえがおではなしていました。
- ・さんは、しつもんしたことをすぐいえておおきなこえではなしていたので、えらいとおもいました。
- ・さんは、おおきなこえで、はっきりしてて、うなずきながらやっていたところがすごかったです。
- ・さんが、みんなのかおをみていたところがよかったです。
- ・さんのこえがおおきかったし、はこもじぶんでつくってきてすごいなあとおもったし、はっきりしたこえでいったのでよくわかりやすかったです。だから、わたしもこうなりたいです。
- ・みんなえがおだし、あんまりきんちょうしてないひとがいっぱいいました。すごいとおもいました。

幼稚園での発表会

- ・発表会を、学級内にとどまらず、幼稚園まで出かけて行き、園児を対象に発表する機会を設定した。発表した児童は、異年齢の子ども達に自分の宝物を上手に紹介できたことに、満足していた。発表会後の児童の感想を以下の様である。

【発表した1年生女兒の感想より】



- ・発表会終了後に、幼稚園から次の様な感想が寄せられた。

【幼稚園児の反応】

- ・大きな箱から、どんどん小さな箱がでてきたのがおもしろかった。
- ・中身をあてたら、もらえるとおもった。
- ・元気な声で発表している1年生をみて、「お兄ちゃん達上手だね〜。」と言っていた。
- ・クイズをするのが楽しかった。
- ・問題をとくのが楽しかった。
- ・箱の中の宝物で遊びたかった。
- ・箱を開ける瞬間が楽しい。
- ・いつも遊ぶ友達（1年生）が、真面目な顔をしてすごいと思った。
- ・虫の図鑑が宝物の箱から、出たのがすごいと思った。

(3) 考察

- ・ワークシートを書く作業において、特に低学年の場合は口頭作文から文字作文に移行したばかりで、個人差を考慮した。個別対応をすることで、どの児童も意欲的に授業に参加できた。
- ・自分の宝物という児童の身近にある物を学習材にすることによって、児童が意欲的に学習に取り組んでいた。
- ・発表会まで宝物を秘密にしたことで、会を盛り上げることができた。
- ・発表する場所や対象を変え、何度も発表させることで聞き手にわかりやすく大きな声で説明ができた。
- ・発表会の中で、質問や応答をしたり、友達に共感したり、よさを見つけたり相互に交流をすることで、対話をする力がついた。
- ・実践後のアンケートからは「みんなに聞いてもらえるからうれしい。」「発表をますます頑張りたい」などの感想があり、言葉遊びやスピーチワークを重ねていくうちに言語表現の技術と自信をつけることができた。
- ・幼稚園児の「楽しかった」「上手だね〜」との感想から、発表の対象を変えてもわかりやすく伝えることができたといえる。

研究の成果と課題

1 成果

- (1) 帯単元は、短時間で繰り返し指導する特性から、低学年において話す・聞く能力を定着させるのに効果的であることがわかった。
- (2) 話す・聞く活動の帯単元で培った力で、人前でも臆することなく自信をもって発表したり、応答したりして対話をする力を育むことができた。
- (3) 発表会で伝え合う場を設定することで、双方向のやりとりを行い、友達の良さを見つけると同時に受け入れ、伝え合う力が育まれた。

2 課題

- (1) 「伝え合う力の育成」につながる多くの教科や日常生活を網羅した指導計画の立て方、及び実践のあり方を工夫していきたい。
- (2) 表現力を高めるために、個々にめあてをもたせ自己評価を活かして効果的な指導法を工夫していきたい。
- (3) 基礎的・基本的な事項を確実に定着させるため他学年の「話す・聞く」の年間指導計画を作成し、系統立てた指導法を工夫していきたい。

【おわりに】

「伝え合う力を育むために・・・」6ヶ月間研究に取り組んできました。どの子ども自分の思いや願いを伝える事を苦手とせず、人前で臆せずにお話できれば・・・と言う思いがこの研究に取り組むきっかけでした。

本研究を通して、思いはあるがなかなか口に出さない子、発表はしても声が小さかったり、内容が乏しかったりと相手にわかりやすく伝えきれなかった子ども達が、ドキドキしながらも精一杯お話しする姿が見られ手ごたえを感じることができました。

また、研究を進めていくうちに、国語教育の難しさと同時に重要さを痛感しました。教師が教材教具を工夫することで、子ども達の目がきらきら輝き授業が生きてくることも実感しました。そして子ども達の無限大に広がる可能性を感じ、子ども達から学ぶことの多い半年間でした。

また現場にいるとなかなかできない理論や実践にも触れることから、これまでの自分の実践を振り返るいい機会になりました。今回の研修で得たたくさんの財産をこれからの教育実践で大いに活かして行きたいと思います。

最後になりましたが、教科指導の担当として親身にご指導くださいました浦添小学校校長の玉城きみこ先生、当研究所の比嘉信勝所長、當間正和係長、石川博基指導主事、山里昌樹前指導主事、他職員の方々に心から感謝申し上げます。

そして研修の機会を与えてくださいました浦添市教育委員会の先生方、前田小学校の上村校長先生をはじめとする諸先生方にも感謝申し上げます。また、半年間共に研究を進めてきた研究員の先生方にもたくさん支えてもらい、充実した研修ができました。有難うございました。

【主な参考・引用文献】

- | | | | |
|-----------------------------|---------------|--------|-------|
| ・『小学校学習指導要領解説 国語編』 | | 文部省 | 1999年 |
| ・『「伝え合う力」を育てる国語学習』 | 本堂 寛 | 東京書籍 | 2000年 |
| ・『小学校1年の国語学力・絶対評価で鍛える』 | 瀬川榮志 | 明治図書 | 2003年 |
| ・『音読集「じゃんけんぼん」』 | 川崎洋・小海永二・桜本善徳 | 文溪堂 | |
| ・『音読集1「ひばり」』 | まどみちお・瀬川榮志 | 公文書院 | |
| ・『楽しく学ぶ「話し方・聞き方ワーク1年」』 | 瀬川榮志 | 明治図書 | 2000年 |
| ・『話すこと・聞くことマスターカード』 | 野口芳宏 | 明治図書 | 2002年 |
| ・『伝え合い、学び合いの時代へ』 | 安居總子 | 東洋館出版社 | 2002年 |
| ・『「聞く力・話す力」を確実に育てる』 | 山田一 | 明治図書 | 2003年 |
| ・『一年生「発表力」の育て方』 | 山田一 | 明治図書 | 2000年 |
| ・『一年生「聞く力」の育て方』 | 山田一 | 明治図書 | 2000年 |
| ・『子どもが輝く国語科授業 話すこと・聞くこと編』 | 中山厚子 | 東洋館出版社 | 2001年 |
| ・『国語科1・2年全単元の絶対評価 評価の工夫と実際』 | 清水健 | 明治図書 | 2002年 |
| ・『国語科 基礎・基本と学習指導の実際』 | 小森茂 井上一郎 | 東洋館出版社 | 2002年 |

